

研修医 1 年目に想定している EBM 講習会のスタイルと流れ

目的 臨床研修に先立ち、短期間に EBM を実践するのに必要な基本的な考え方と最低限の知識と技術の伝達

目標 4 時間終了時には「EBM の基本概念を理解」「第 1 段階の疑問の定式化を、実際の症例から 4 パートクエスチョンにまとめることができるようにする」「第 2 段階の情報源を自分の現場で入手できるようにする」

人数 約 10-20 名 **講師** 1 (原則) 名 (グループごとにチュータをつけるのなら、3-5 名)

期間 半日 (4 時間)

時期 研修開始時

プログラム (例)

時間	内容	教材
13:00-14:00	コースの目的の確認 EBM の 5 つのステップと、情報源の解説	レジュメ、マニュアル、スライドなど
14:00-15:00	症例検討 2-4 グループに分かれて、EBM のステップを実践する。 この段階では特に第 1 段階の疑問の定式化の実践に重点を置き、このステップの理解を深める。	1-3 の症例・シナリオを考えさせる
15:00-15:15	休憩	飲み物・軽食
15:15-15:45	グループの発表と質疑	グループごとに作成した疑問を示す
15:45-16:45	情報へのアクセス法、検索法、選択手順を概説する。 情報源の使い方やそれぞれの特徴。UpToDate, PubMed, Cochrane Library など	インターネットアクセス、病院図書室の公開
16:45-17:00	論文を読むポイントの解説	実際の論文、そのまとめや評価シートのメモなど
17:00-17:30	コースの総括と評価	全員で検討する できれば今後の院内研修の流れと共に説明するとよい。

ポイント：「EBM は、臨床の現場で直面する疑問や課題を解決するための手段として有用な方法である」というメッセージを伝える

実際に研修の現場で利用可能な情報源を活用する

あまり、論文の批判的吟味に労力を割かない。むしろ、そこはさっと流し、その結果を踏まえてどう判断するかを考えさせる手順に進める。

具体的な作業・運営のポイント

理想となる基本ルール：参加者を臨床業務から自由にする。臨床業務前に行うか、事前に院内に周知してポケットベルなどとりあげておく。でも、実際には難しい。

会場設営：参加者5-7人でグループワークができるような広さがあること。グループ発表ができるように、ホワイトボードなどがあること望ましい。情報検索を一連で行うためには、インターネットと接続する環境を提供するか、そのような環境のある部屋の近くで行う必要がある。できれば、その日だけの情報源ではなくて、日常的に病棟や救急外来での使いやすさも含めて紹介すると、研修医にとって有益。

机の配置：参加者がグループごとに座れるように、机をかためてその周りに人数分のイスを並べるスタイルとする。

活用する情報源：基本原則は、自分の病院で使えるものを優先する。手軽に使えるもの、無料で使えるもの、自分も使っているものを紹介する。そういった意味では、良質な教科書・院内マニュアルなども、問題点やあいまいさを含めて説明すれば、研修医の理解も深まる。コンピュータは、2人に1台程度あるとベスト。4人に1台以下になると、どうしても参加できない人が増えてくる。教科書や専門書、マニュアルなどを準備して、手作業での情報検索も併用すると良い。

教材：パッケージを参考にして、自分のやりやすいシナリオや内容にする。事前に配るもの、当日の最初に配るもの、途中で配るもの、など、資料の使い方を想定して配布のタイミングを計る。

講師・ファシリテーター：自分の医療機関の人材を活かす。やむなく外部に講師を招聘する場合には、何をして欲しいかをなるべく明確に伝える。なるべく研修の担当になる立場の人にも紹介し、研修医にとって「一発花火」ではなく一貫性のある企画であること示すことができるようにする。また、情報検索演習の時には病院の図書室の職員などにも加わってもらおうと、いろいろ手助けもしてもらえし、研修医にとっても職種間交流の良い機会になる。

レクチャーのポイント：スライドを用いてもよいが、なるべく立って参加者の目を見ながら話すこと。参加者が連続して集中できるのは、せいぜい15分。時々間をとりながら、参加者の注意を引きながら進める。

EBMの解説のレクチャーの時も、具体的な事例を紹介したり、参加者をペアにしてお互いの考えを聞き合ったりするような企画を入れると、参加者にとっては集中しやすく感じる。

もし、参加者のモチベーションが低ければ、ポイントを絞って早めに作業に入る方がよい。

特に、若い医師はインターネットなどを用いた検索実習は集中が持続でき、興味を持っているいろいろなことにチャレンジする。ただし、レクチャーの時点からコンピュータのスイッチを入れると、そっちに気がとられるので、レクチャーの間はスイッチを切ってもらっておく。

最後に、「で、シナリオについてどう思うか」という問いかけを行う。できれば、どう取り組んだかについて発表させると良い。